

# 仙台忍頂寺家所蔵資料目録

青田寿美・飯倉洋一・内田宗一  
福田安典・山本和明・鷺原知良

2009年9月6日、国文学研究資料館公募共同研究「近世風俗文化の形成 —忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺—」研究会に、務の御高孫にあたる忍頂寺晃嗣氏を特別講師として招聘したことが端緒となり、2010年8月4日～6日にかけて仙台市内の忍頂寺家所蔵資料の調査をさせていただくこととなった。この間の経緯は、飯倉洋一「忍頂寺文庫・小野文庫の研究 — 2009年度—」<sup>\*1</sup>に示される。

9月6日の研究会では、忍頂寺務嫡男で実孫の忍頂寺晃嗣氏（仙台市在住）をお招きし、聞き取り調査を行い、忍頂寺家の家系や忍頂寺務の出自が明確になった。その席上で、御自宅に保管される資料若干を持参されたが、務の俳号や俳歴が明らかになるなど、重要な事実が多く明らかになった。国文学研究資料館では晃嗣氏のご許可を得て、これらの資料を撮影・調査し、12月26日にご自宅までお返しに伺った。この時、他にも資料があるというので見せていただいたところ、忍頂寺家の系図、忍頂寺家代々の事蹟（務筆）、務草稿など、きわめて重要な資料が次々に出現し、共同研究の延長も考えなければならない事態となっている。その後、共同研究の延長は叶わなかったものの、仙台忍頂寺家所蔵資料は本研究にとって看過できないものとして、研究期間の最終年度となる2010年に研究計画の変更申請が認可され正式に書誌調査を行わせていただく運びとなった。調査に当たったのは共同研究員である標記の6名、調査点数126点。

夙にその名が知られる大阪大学附属図書館所蔵「忍頂寺文庫」に加え、務蒐書の残余および自筆資料等併せ492点は「小野文庫」<sup>\*2</sup>と名付けられて同館に収蔵されたが、今回の調査対象となったのは、後者が阪大に収められる際に除外された“忍頂寺家”にまつわる資料を中核とする。即ち、忍頂寺家重代の資料と目すべき〔忍頂寺家家譜〕〔同年譜〕〔同資料〕（各々「家重①」「家重②」「家重③」の外題箋あり）を始め、忍頂寺聴松宛書簡巻軸、務旧蔵書に捺された印類の類である。忍頂寺文庫研究は言うに及ばず、忍頂寺務の事績研究にとっても稀覯かつ重要な資料と考え、資料目録の作成を御所蔵者に申し出た次第である。

資料の閲覧・調査・目録公開の申し出を御快諾くださったうえ、種々御協力と御尽力を賜った忍頂寺晃嗣氏御夫妻に対し、衷心より感謝し厚く御礼申し上げる。

\*1 2009年度大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業）研究成果報告書『忍頂寺文庫・小野文庫の研究4』（「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」共同研究グループ・国文学研究資料館編、2010年3月）。

\*2 務の令嬢小野麗子氏の手元に残されていた、務旧蔵書や筆写資料・来翰類を中心とする資料群。青田寿美・内田宗一・大内瑞忠・太田路枝・神林尚子・佐山美佳・丹羽みさと「大阪大学附属図書館蔵 小野文庫目録」（『調査研究報告』28、2008年1月、人間文化研究機構国文学研究資料館調査収集事業部）参照。

## 凡 例

### 1. 分類・配列順

本目録が「大阪大学附属図書館蔵 小野文庫目録」を補完するものとして作成された経緯を踏まえ、「什物」の項目を増やした以外は原則として「小野文庫目録」の分類に拠った。分類項目内で、資料ごとの纏まりや年次を考慮のうえ配列した。次に、分類一覧と資料点数、本目録の掲載頁を示す。「小野文庫目録」にあつて本目録では点数のない項目も、参考までに残しておいた。

1 和本	…… 34 点	…… 9 頁
2 複製本	…… 0 点	
3 活字本	…… 3 点	…… 11 頁
4 雑誌・機関誌	…… 5 点	…… 11 頁
5 忍頂寺務自筆資料・他	…… 21 点	…… 12 頁
5. 1 手写本	( 1 点)	
5. 2 原稿・草稿・ノート類	( 5 点)	
5. 3 その他	(15 点)	
6 書簡	…… 4 点 [内訳 289 点]	…… 13 頁
7 雑	…… 44 点	…… 14 頁
7. 1 展観目録	(12 点)	
7. 2 蔵書目録	( 0 点)	
7. 3 古書目録	( 0 点)	
7. 4 図書目録・月報	( 1 点)	
7. 5 歌謡・舞踊関係資料	( 0 点)	
7. 6 忍頂寺務関係資料	(28 点)	
7. 7 その他	( 3 点)	
8 什物	…… 15 点	…… 19 頁

上記の書誌データを、執筆者6名で分担して作成した。「6 書簡」については、「[忍頂寺務宛書簡] 差出人別リスト」(内田宗一編)を巻末に付した。全体のとりまとめには青田があたった。

### 2. 記載項目

各資料の書誌は、以下①～⑫の順序で掲出した。// は改行、\_ はスペースをあらわす。⑫備考は、原則一段落で簡潔に記述することを旨としたが、改行を入れ内容細目を記したものもある。

- |                                 |
|---------------------------------|
| ①資料名_読み //                      |
| _②刊写の別_③書型 ④数量_⑤総紙数_⑥寸法 //      |
| _⑦編著者等_⑧序跋_⑨刊書写地_⑩刊書写者_⑪刊書写年 // |
| _⑫備考 //                         |

### ①資料名 読み

- \*原則として原外題による。見返し題・内題等が外題と異なる場合は、適宜⑫備考に記す。
- \*書誌入力者が与えた仮題は〔 〕で括って区別する。
- \*本題と角書・副題とは / で区切る。
- \*合綴・合写された資料のうちいくつかについては、1点ごとに見出しを立てるか、もしくは綴じ合わされた複数点のタイトルを列記し資料名としたものがある。後者の読みもスペースをあけて列記した。合綴点数が多く煩瑣になる場合は〔ほか〕と記し、備考にて詳細を示した。

(例) 洒落本書目〔ほか〕 しゃればんしょもく

- \*読みは、全て現代仮名遣いとする。

### ②刊写の別

- \*刊本・写本の別を示す。両者の合綴資料は「混」とする。

### ③書型

- \*以下の如く略記した。

(例) 大……大本 半……半紙本 中……中本 小……小本 横……横本

### ④数量

- \*和古書および近代単行本・自筆稿本類に関しては、現状の冊数を示す。端本の場合は存欠状況を( )内に添え、合冊・合綴は「合1冊」のように示した。
- \*雑誌については、所蔵される冊数ではなく、巻号数を示す。号数が揃いであれば巻数のみ記した。

(例) 半合1冊 ……半紙本で合綴されていることを示す。

### ⑤総紙数

- \*文書等で大部のものについては、概数のみを示した。
- \*雑誌については、頁数をカウントしない。

### ⑥寸法

- \*縦×横 cm (縦×横×高さ cm) で示す。

### ⑦編著者等

- \*他資料を参照して補うことはせず、原則として当該資料の記載による。なお、存疑事項には〔 〕を付した。

### ⑧序跋

- \*和古書に関しては、原則序跋情報を簡潔に示し、必要に応じて⑫備考に内容を摘記する。近代の出版物については、適宜これを省略する。

### ⑨刊書写地

- \*和古書に関しては、原則として当該資料の記載により、必要に応じて〔 〕内に注記した。近代の出版物については、市町村名を示したのち、適宜、都道府県名を( )内に添えた。ただし、東京は全て「東京」とした。
- \*類推できる場合は〔 〕内に記す(⑩⑪も同じ)。

### ⑩刊書写者

\*板元名が複数記される場合は、原則として最後の書肆（近代の出版物に関しては、筆頭の書肆）を採り、続けて「ほか1肆」などと残りの書肆数を示した。

#### ⑪刊書写年

\*当該本が重版の場合は、「明治四十二年十月（再版）」などと記し、初版の情報は⑫備考にて紹介した。

\*雑誌については、所蔵分のうち出版の一番早い号につき「大正十五年九月（第十一冊）」の如く（ ）内に巻号数を添えて記し、併せて⑫に刊行頻度を示した。

#### ⑫備考

\*特記事項があれば記す。

### 3. 表記について

\*原則として通行の字体を用いる。

\*原則ルビは省略したが、必要に応じて [ ] 内に補った。

\*難読字・欠損字には □ を充てる。

\* JIS 第1・第2水準にない漢字は = を入れ、続けて、可能な範囲で（ ）内に偏旁等を注記した。

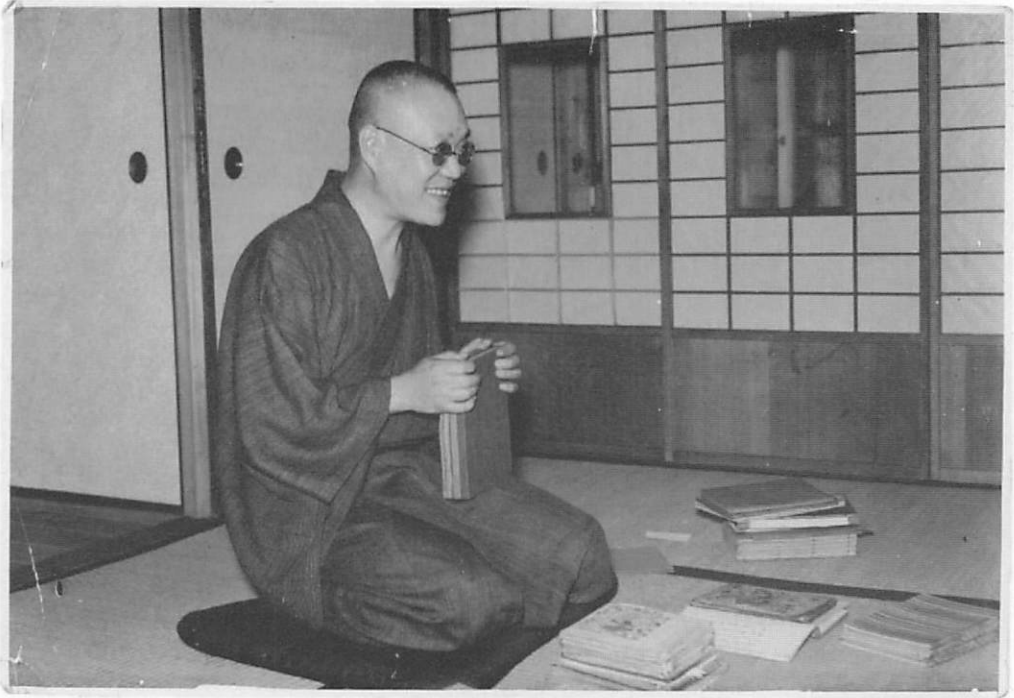
### 4. 図版、他

\*本目録巻頭に7点の図版を掲げた（詳細は、各々の書誌項目参照）。撮影は中川仁喜氏の御助力によるものである。貴重資料の撮影・掲載に御高配を賜った御所蔵者に改めて深謝申し上げる。

\*国文学研究資料館にて撮影した画像のうちいくつかについては、御所蔵者の御許可を得た上で、当館 Web サイトより公開の予定である。

\*本目録の記載内容等に関する照会先は、国文学研究資料館研究部・青田とする。

（青田寿美）

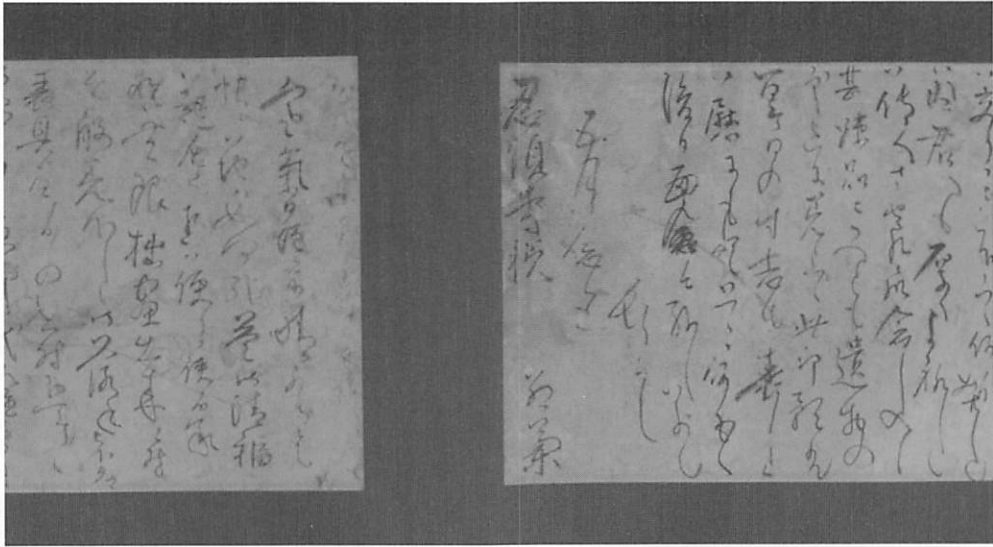


【 図版1 】 上：忍頂寺務（昭和九年九月東京日々新聞所載写真）

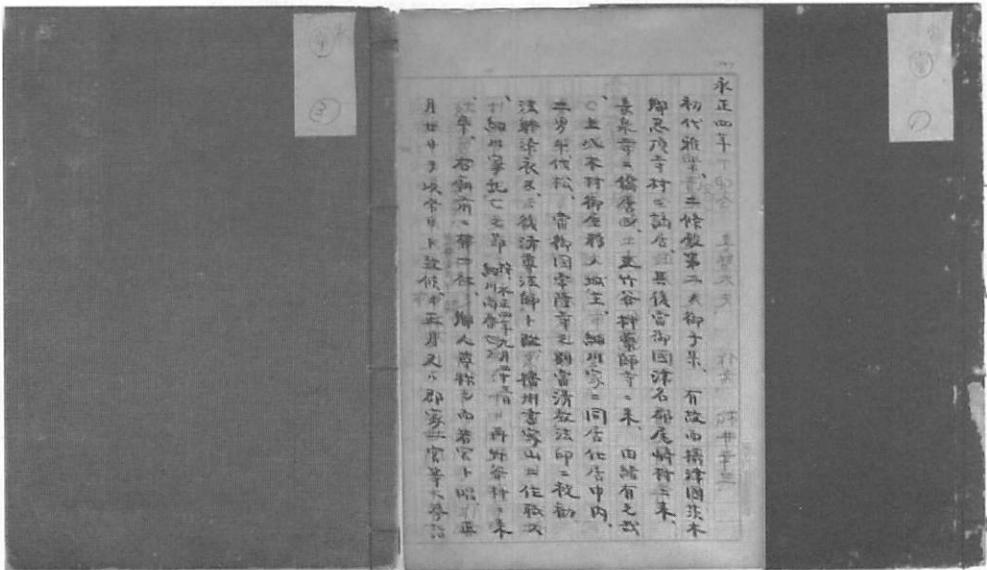
下：務と三田村鳶魚 [年時不明]

(19 頁参照)





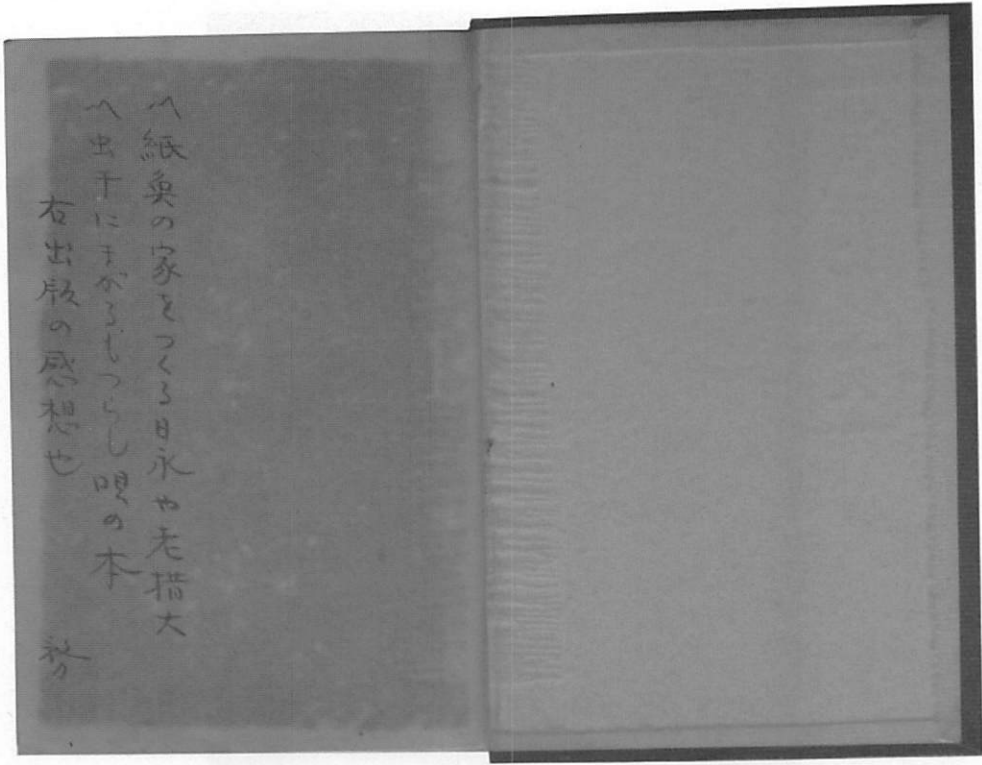
【 図版2 】 【忍頂寺聴松宛梁川紅蘭書簡】 (10 頁参照)



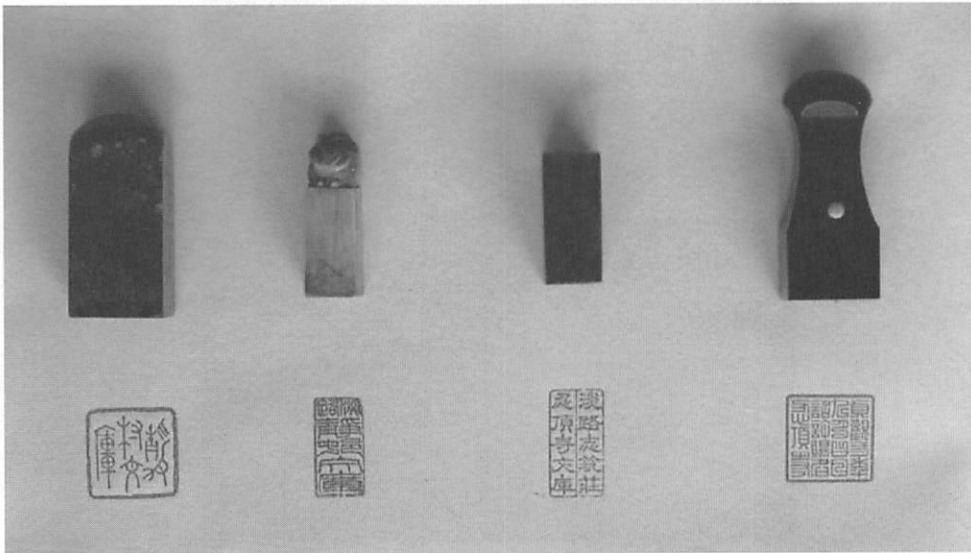
【 図版3 】 【忍頂寺家年譜】 ほか (家重①~③) (13 頁参照)



【 図版4 】 忍頂寺静村画「臨池子擬藍瑛山水」 (20 頁参照)



【 図版5 】 忍頂寺務著『清元研究』 見返し (11 頁参照)



【 図版6 】 印類 (蔵書印4顆) (20 頁参照)



## 1 和本

**〔藤原光実ほか色紙一括〕** ふじわらみつざねほか  
しきしいかつ

写 10枚 21.3×18.3cm

藤原光実〔ほか〕書〔年時不明〕

包紙に「外山従二位前宰相藤原朝臣光実卿 色紙一枚 御納戸より大庭久右衛門江」

**御間位官金元／相撲** おんききくらいかんぎんもと  
すもう

刊 1枚 35.6×24.0cm

大坂 いづみや卯作 文化三年四月

「文化三丙寅卯月吉日板」

**中村芝翫丈江餞別目録** なかむらしかんじょうへせ  
んべつもくろく

刊 1枚 32.2×46.0cm

京 叶屋喜太郎〔文政二年〕

巻頭に「卯の冬御名残り十月十七日江戸出立の節」芝神明前蔦屋忠五郎板元」とあり 成立については上欄外に「文政二年」と墨書

**廓当時流行すい言葉** ほんあたらしいすいことば

刊 1枚 34.2×46.8cm

大坂 本屋安兵衛 文政

裏打ちあり

**廓流行粹最上／すい言葉** ほんあたらしいすいの  
みなかみいろざとことば

刊 1枚 34.2×45.0cm

大坂 本安(本屋安兵衛)〔出版年不明〕

**新版すいことば** しんばんすいことば

刊 1枚 34.0×46.9cm

京 柏屋宗七 天保三年八月

裏打ちあり 「天保三年壬辰再板」「京師柏屋宗七板」

**当世花詞粹仙人** はやりことばしやれのみなかみ

刊 1枚 33.7×46.0cm

三笑述 京 柏屋宗七ほか1肆〔天保十五年成立〕

裏打ちあり 書名「辰のとし大新板／当世花詞粹仙人」とあり、天保十五年成立とした

**新改勢後町宝年代記** しんかいせいごちょうほうね  
んがしき

刊 1枚 37.8×51.6cm

南夢住法師柳の種述〔出版地不明〕〔出版者不明〕 嘉永二年

**しんばん画口合まんざい** しんばんえぐちあいまん  
ざい

刊 1枚 34.7×46.8cm

〔出版地不明〕〔出版者不明〕〔江戸後期刊か〕

**〔色里御馴染の本こし三の替り〕** いろざとおなじ  
みのほんこしさんのかわり

刊 1枚 28.6×38.7cm

〔出版地不明〕〔出版者不明〕〔出版年不明〕

**滑稽志題／是個道楽年代記** しゃれしたしこれが  
どうらくねんがしき

刊 1枚 26.7×37.9cm

文尚堂〔江戸〕〔出版者不明〕〔出版年不明〕

**新板里乃正月／吉原万歳大酒盛** しんばんさと  
のしょうかつよしわらまんざいおおさかもり

刊 1枚 28.0×38.2cm

〔江戸〕中村清治郎〔出版年不明〕

**八重桜花のなぞぶ□** やえざくらはなのなぞぶ□

刊 1枚 28.7×39.9cm

〔出版地不明〕吉田屋〔出版年不明〕

**色街社会／粹ことば** いろまちはやりすいことば

刊 1枚 37.7×51.0cm

大阪 田中安次郎 明治十五年

「明治十五年月極新板」「心齋橋筋南久宝寺町西 田中安次郎」

**〔表紙〕** ひょうし

大4種 24.7×17.6cm

大正十一年頃

内容：

- 「廻瀾集 第八編」(カーボン紙2枚あり)
- 後ろ表紙(見返しに「大正十一年七月六日稿成／東宮殿下北海道御祭駕ノ日」と務筆にてあり)
- 「狂言作者心得書」と題された表紙と後ろ表紙
- 表紙(題箋が一部残り角書に「延寿」とある)
- と後ろ表紙(見返しに「大正十一年四月十九日稿

成英国皇太子殿下御退京ノ日」と務筆にてあり)

〔忍頂寺聴松宛梁川紅蘭書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてやながわこうらんしよかん  
写 1点 16.3 × 64.7cm  
梁川紅蘭自筆 安政六年五月五日  
書簡巻軸一の1点目 『上方』111号「紅蘭未  
亡人の書簡」に翻刻(その一)

〔忍頂寺聴松宛梁川紅蘭書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてやながわこうらんしよかん  
写 1点 16.7 × 83.0cm  
梁川紅蘭自筆 万延元年十一月  
書簡巻軸一の2点目 『上方』111号「紅蘭未  
亡人の書簡」に翻刻(その四)

〔忍頂寺聴松宛梁川紅蘭書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてやながわこうらんしよかん  
写 1点 17.1 × 80.5cm  
梁川紅蘭自筆 安政七年三月十二日  
書簡巻軸一の3点目 『上方』111号「紅蘭未  
亡人の書簡」に翻刻(その三)

〔忍頂寺聴松宛梁川紅蘭書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてやながわこうらんしよかん  
写 1点 14.9 × 111.7cm  
梁川紅蘭自筆 文久二年五月一日  
書簡巻軸一の4点目 『上方』111号「紅蘭未  
亡人の書簡」に翻刻(その六)

〔忍頂寺聴松宛梁川紅蘭書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてやながわこうらんしよかん  
写 1点 15.5 × 37.9cm  
梁川紅蘭自筆 慶応三年十月三日  
書簡巻軸一の5点目 『上方』111号「紅蘭未  
亡人の書簡」に翻刻(その七)

〔忍頂寺聴松宛遠山雲如書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてとおやまうんじよしよかん  
写 1点 15.6 × 68.0cm  
遠山雲如自筆 安政六年八月三日  
書簡巻軸二の1点目 『陳書』12輯「竹外と  
雲如」に翻刻

〔忍頂寺聴松宛藤井竹外書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてふじいちくがいしよかん  
写 1点 15.3 × 151.3cm  
藤井竹外自筆 嘉永五年閏二月六日

書簡巻軸二の2点目 『陳書』12輯「竹外と  
雲如」に翻刻

〔忍頂寺聴松宛藤井竹外書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてふじいちくがいしよかん  
写 1点 15.1 × 115.3cm  
藤井竹外自筆 嘉永六年三月五日  
書簡巻軸二の3点目 『陳書』12輯「竹外と  
雲如」に翻刻

〔忍頂寺聴松宛頼三樹三郎書簡〕 にんじょうぢ  
ょうしょうあてらいみきさぶろうしよかん  
写 1点 16.0 × 70.0cm  
頼三樹三郎自筆 二月十九日 [年不明]  
書簡巻軸三の1点目 『陳書』14輯「頼三樹  
三郎の書翰」に翻刻

〔忍頂寺聴松宛頼三樹三郎書簡〕 にんじょうぢ  
ょうしょうあてらいみきさぶろうしよかん  
写 1点 15.8 × 24.9cm  
頼三樹三郎自筆 十月一日 [年不明]  
書簡巻軸三の2点目 『陳書』14輯「頼三樹  
三郎の書翰」に翻刻

〔忍頂寺聴松宛頼三樹三郎書簡〕 にんじょうぢ  
ょうしょうあてらいみきさぶろうしよかん  
写 1点 15.1 × 42.5cm  
頼三樹三郎自筆 六月二十日 [年不明]  
書簡巻軸三の3点目 『陳書』14輯「頼三樹  
三郎の書翰」に翻刻

〔雲濤宛篠崎竹陰書簡〕 うんとうあてしのざきちい  
んしよかん  
写 1点 16.0 × 58.0cm  
篠崎竹陰自筆 十月二十一日 [年不明]  
書簡巻軸三の4点目 翻刻の公刊なし(務自筆  
〔忍頂寺家家譜〕〔家重①〕に翻字あり)

〔雲濤宛篠崎竹陰書簡〕 うんとうあてしのざきちい  
んしよかん  
写 1点 9.3 × 28.4cm  
篠崎竹陰自筆 十三日 [年月不明]  
書簡巻軸三の5点目 翻刻の公刊なし(務自筆  
〔忍頂寺家家譜〕〔家重①〕に翻字あり)

〔忍頂寺聴松宛篠崎竹陰書簡〕 にんじょうぢょう  
しょうあてしのざきちいんしよかん  
写 1点 9.2 × 54.7cm

篠崎竹陰自筆 三月九日 [年不明]  
書簡巻軸三の6点目 翻刻の公刊なし(務自筆  
〔忍頂寺家家譜〕(「家重①」)に翻字あり)

〔忍頂寺聴松宛遠山雲如書簡〕 にんじょうぢちゆう  
しやうあてとおやまうんじよしかん

写 1点 14.2 × 124.2cm

遠山雲如自筆 安政七年一月八日

書簡巻軸三の7点目 『陳書』12輯「竹外と  
雲如」に翻刻

〔稲田求馬宛外山中納言書簡〕 いなだきゆうまあ  
てとやまちゆうなごんしよかん

写 1点 36.3 × 47.7cm

外山(藤原)自筆 [年時不明]

忍頂寺家と二條殿についての書簡 差出人の外  
山中納言は藤原

〔長尾丹治宛北少路丹波守藤原内匠助書簡〕

ながおたんじあてきたしやうじたんぼのかみふじわらたくみ  
のすけしよかん

写 1点 36.0 × 40.0cm

藤原自筆 [年時不明]

二條殿お目見えの件

忍頂寺仁三郎拜知高並家宅指出帳 にんじょう  
じこんざぶろうしちたかならびこかたきさしたしちゆう

写 大1冊 6枚 27.1 × 20.0cm

忍頂寺卯三郎自筆 天保十三年十一月

表紙に「天保十三年寅」「十一月」「上ル扣」、文  
書末に「右は同性仁三郎十月廿四日病死仕候ニ付  
被為下置候拜知高居宅相改指上申処相違無御座候  
以上 忍頂寺卯三郎広知(花押) / 天保十三年寅  
年十一月 / 柳橋茂兵衛様 / 富田新二郎様」とあり

〔三田村鳶魚漢詩幅〕 みたむらえんぎよかんしふく

写 1枚 136.2 × 35.1cm

三田村鳶魚書 [年時不明]

表装なし 「静村兄一察 鳶魚生」

### 3 活字本

巖榎本翁小伝 いつかしかもとおうしやうでん

刊 1冊 4丁 23.9 × 16.0cm

秋野庸彦著 洲本町(兵庫県) 鈴木謙吉 明  
治四十二年十月(再版)

表紙・鈴木重胤先生小伝(内題)2丁、奥付1  
丁、鈴木重胤大人著述書目1丁 明治四十一年九  
月初版(山形県)大瀧直之助発行 明治四十二年  
十月再版(兵庫県洲本町)鈴木謙吉発行、淡路新  
聞社印刷

清元研究 きよもとけんきゆう

刊 1冊 654頁 19.2 × 13.3cm

忍頂寺務著 東京 春陽堂 昭和五年五月

箱入り 務の書入あり 高岸拓川からの手紙を  
挟む

季題例句／歳時記大観 きたいせいいくさいじきたい  
かん

刊 1冊 483頁 15.5 × 11.3cm

寒川鼠骨編 東京 香蘭社出版 昭和十三年十  
一月(再版)

函あり 昭和九年八月二十五日初版発行

### 4 雑誌・機関誌

延寿清話 えんじゆせいわ

刊 11 22.3 × 15.1cm

忍頂寺務編 神戸 忍頂寺務 大正十五年九月  
(第十一冊)

不定期刊 奥付に「非売品」「以印刷代謄写」  
とあり 務筆「小柴年代記」「雁来紅友」(ともに  
目次題) 所載

清元研究 きよもとけんきゆう

刊 20 22.2 × 15.1cm

藤尾頼二編 神戸 大江戸芸術社ほか1肆 昭  
和二年二月(第二十号)

月刊 もう一つの発行所は、大江戸芸術社支部  
務筆『夕ぎり』註釈(目次題) 所載

凌霜 りようそう

刊 11 22.3 × 15.1cm

和田重義編 神戸 社団法人凌霜会 昭和二十  
七年九月(復刊第十一冊)

刊行頻度不明 神戸大学同窓会誌か 奥付に  
「非売品」とあり 編輯者・発行所の所在地は竹  
田合名会社内

会員名簿 かいゐんめいぼ

刊 1冊 13.0 × 19.0cm

田中万兵衛編 洲本町(兵庫県) 兵庫県立洲  
本中学校校友会 昭和八年二月  
洲本中学校校友会会員名簿 奥付に「非売品」  
とあり 奥付発行所名は「兵庫県立洲本中学校校  
内校友会学芸部」 後ろ表紙に書込図あり(鉛筆  
書)

珍書会々員名簿 ちんしょかいがいしんめいぼ  
刊 1枚 25.6 × 36.3cm  
〔神戸〕 〔珍書会〕 〔出版年不明〕  
謄写版 務名記載あり「忍頂寺務/淡路津名郡  
浦村畠田利三郎方/民謡研究家」

## 5 忍頂寺務自筆資料・他

### 5. 1 手写本

万曆家内年鑑 続家内年鑑 聴松詩稿 雙  
鶴詩稿 巻頭言(江戸読本第六号) ばんれき  
かないねんかん ぞくかないねんかん ちょうしょうしこう  
そうかくしこう かんとうげん(えどとくほんたいろくごう)  
写 1冊 88丁 25.0 × 17.5cm  
忍頂寺務自筆 大正十一年八月稿成  
「万曆家内年鑑」14丁、「続家内年鑑」37丁、  
「聴松詩稿」10丁、「雙鶴詩稿」25丁、「巻頭言」  
『江戸読本』第6号)2丁 諸系図6丁(ステ  
ープラー留)を挟む 朱の書き入れ多数 神戸高  
商消費組合原稿用紙(使用済)を裏折した用紙を  
使用 縹色布目表紙 表紙に「㊦」と鉛筆書きあ  
り 後ろ表紙見返しに「大正十一年八月廿日稿成」

### 5. 2 原稿・草稿・ノート類

静村文庫書目 せいそんぶんこしょく  
写 半合1冊 44丁 22.6 × 15.2cm  
忍頂寺務自筆 昭和十年六月調  
〔忍頂寺務句集〕等と合綴

〔忍頂寺務句集〕 にんじょうじつとむくしゅう  
写 半合1冊 40丁 22.5 × 15.2cm  
忍頂寺務自筆  
明治三十七年から昭和二十六年までの務の句集  
務自筆「静村文庫書目」と合綴

忌辰録 人名録 きしんろく じんめいろく  
写 半合1冊 22丁 22.4 × 15.1cm  
忍頂寺務編  
務自筆「静村文庫書目」と合綴

洒落本書目〔ほか〕 しゃれほんしょく  
混 半合1冊 56頁 22.6 × 15.1cm  
忍頂寺務編  
尾崎久弥「洒落本書目」『江戸軟派研究』第8  
冊所載、朱にて書込あり)併せて、古書目録等  
より抜粋したと思しき務自筆書目メモおよび口絵  
写真版数葉あり 務自筆「静村文庫書目」と合綴

貿易屋の古机 ぼうえきやのふるつくえ  
写 1冊 10丁 20.8 × 14.5cm  
忍頂寺務著 昭和二十五年一月十日成  
20字×20行の茶罍原稿用紙にペン書 二つ折  
り、右肩を紐で綴じる 務が明治四十一年に神戸  
高等商業学校を卒業の後、日本製茶輸出株式会社  
勤務を経て森西ウイリアムス会社に入り、そこで  
の貿易業務の一端を綴ったもの 原稿末尾に「(昭  
二五、一、一〇)」の日付記載あり 「中央公論  
社」(宛先:忍頂寺務、差出人:笹原金次郎)の  
封筒に収める 「和本絶版書専門店 三村書店  
和洋製本部」より昭和十五年三月六日付「忍頂寺  
様」宛名の請求書1点を同封(品名欄に以下の書  
名あり、「いたこ唄本 15冊」「洒落本 10冊」「都  
踊り 2冊」「替の魁 映入 2冊)」

### 5. 3 その他

〔五年手控え〕 ごねんてびかえ  
写 1冊 12.9 × 7.8cm  
忍頂寺務自筆

〔大正七~十三年手控え〕 たいしょうしちからじゅう  
さんねんてびかえ  
写 1冊 14.4 × 8.7cm  
忍頂寺務自筆

〔昭和七、八年手帳〕 しょうわしちはちねんてちよう  
写 1冊 13.3 × 7.4cm  
忍頂寺務自筆

〔昭和十四年手帳〕 しょうわじゅうよねんてちよう  
写 1冊 12.8 × 7.7cm

忍頂寺務自筆

【昭和十五年手帳】 しょうわじゅうごねんでちよう

写 1冊 12.1×6.7cm

忍頂寺務自筆

【昭和十七年手帳】 しょうわじゅうしちねんでちよう

写 1冊 12.5×7.2cm

忍頂寺務自筆

【昭和十八年手帳】 しょうわじゅうはちねんでちよう

写 1冊 13.3×6.8cm

忍頂寺務自筆

【昭和二十四年手帳】 しょうわにじゅうよねんでちよう

1冊 15.5×9.0cm

忍頂寺務自筆

【メモ類等一括】 めもゑいとういっかつ

1包

書齋周辺のメモ類等を封筒に入れ一括

忍頂寺務名刺 にんじょうじつとむめいし

刊 45枚 9.0×5.3cm

「忍頂寺務 東京世田谷一ノ一二三 三田村氏方」

【忍頂寺家過去帳】 にんじょうじけかこちよう

写 極小1冊 21丁 13.2×5.8cm

忍頂寺務 [ほか] 自筆 [年時不明]

折本 表紙は黒漆塗板 寛永十七年忍頂寺広久から昭和二十六年十月四日(務没)まで 忍頂寺務筆の部分が多い

【忍頂寺家家譜】 にんじょうじけかふ

写 大1冊 146丁 24.1×16.7cm

忍頂寺務編 [年時不明]

小野麗子筆と思われる「家重①」の外題箋 忍頂寺務専用料紙 袋綴じ

【忍頂寺家年譜】 にんじょうじけねんぶ

写 大1冊 88丁 15.5×17.6cm

忍頂寺務編 小野麗子補 大正十一年三月稿成

小野麗子筆と思われる「家重②」の外題箋 袋綴じ 後ろ表紙見返しに「大正十一年三月廿八日稿成 国母陛下住吉行啓日」

【忍頂寺家資料】 にんじょうじけりよう

写 大1冊 92丁 25.2×17.5cm

忍頂寺務編 大正十一年七月稿成

小野麗子筆と思われる「家重③」の外題箋 忍頂寺氏系図 二條家系譜 旧家就御調系譜書記指上覚書(志筑浜村小高取 忍頂寺仁三郎) 志筑浜村小高取忍頂寺仁三郎素性并動向帳 天保十三寅年十一月忍頂寺仁三郎拝知高井家宅指出帳 元治元子年十月勤書小高取忍頂寺二二郎控 十二世主人控第壹重要記(志筑町舟橋一五六八番 忍頂寺瓦落多) 過去神仏霊名簿 柏木家系図 袋綴じ 後ろ表紙見返しに「大正十一年七月廿六日稿成。」

死亡通知案文 しぼうつうちあんぶん

写 1枚 15.5×20.5cm

忍頂寺務自筆

「傑作文化映画と文化講座の夕」ご案内 状(昭和十六年四月付)の裏紙を使用 ペン書、一部墨筆で訂正 案文末尾は「昭和 年 月 日 午前 時 分/真観院流芳静村居士 忍頂寺務/享年六十 歳」とあり、別筆(小野麗子筆か)にて空白箇所を数字を書き込む 「法号」と併せ保管

## 6 書簡

【忍頂寺務宛書簡】 にんじょうじつとむあてしょかん

写 247点

封書およびハガキ 「小野文庫」収蔵時に小野麗子氏が選別して手元に残したもの 225点およびそれ以外のもの 22点(内田良平1点、頼原退蔵6点、岡部又蔵1点、小田忠嗣1点、川崎芳太郎1点、清元佐登美太夫1点、黒木勘蔵1点、黒木なほ他1点、駒田彦之丞2点、田居憲明1点、大丸呉服店1点、田中治之助2点、中谷保二1点、藤田平太郎他1点、村上ムメ他1点) 内容の詳細は別掲 なお、225点中の昭和23年12月24日消印・井筒正三書簡の封筒内には、忍頂寺務が東洋大学専門部講師に就任した旨の「証明書」(昭和二十三年九月二十七日付、学長(加藤虎之亮)名)が同封される

【忍頂寺務書簡】 にんじょうじつとむしょかん

写 3点

ハガキ 小野麗子宛1点、島田勇雄宛2点

〔濱家熊雄宛忍頂寺務書簡一括〕 はまやくまお  
あてにんじょうじつとむしょかんいっかつ

写 38点

忍頂寺務自筆

封書およびハガキ 宛名無し 12 枚（未使用ハ  
ガキ・裏印刷）と併せ、桐箱に同封

〔忍頂寺務転居通知〕 にんじょうじつとむてんきよつ  
うち

刊 1点 14.2 × 9.1cm

昭和十二年四月

私製ハガキに文面を印刷 東京から神戸へ帰る  
に際しての挨拶状 務自作の俳句を記載「思ひ出  
のうたもありなん帰る雁」

## 7 雑

### 7.1 展観目録

皇室関係図書展観目録 こうしつかんけいとしよて  
んかんもくろく

刊 1枚 13.3 × 45.5cm

三宅吉之助編 三宅吉之助序 大阪 [大阪市  
鞆婦人会] 大正十四年六月

両面刷り 会期：大正十四年六月十九日より二  
十一日まで 会場：大阪市鞆尋常高等小学校 主  
催：大阪市鞆婦人会 出版年は会期による 同小  
学校校舎拡張竣工記念展覧会 編者の三宅は、鞆  
強化委員会会員にして宇津保文庫主人

菊花に関する書籍展観御案内 きっかりにかんす  
るしよせきてんかんごあんない

刊 1枚 11.5 × 7.9cm

青木平七編 青木平七序 大阪 [青木平七]

大正十五年十月

朱刷り 八つ折（広げた大きさは、23.0 × 31.2  
cm） 会期：大正十五年十月三十一日より十一月  
十五日まで 会場：天王寺公園市民博物館階上中  
央皇室関係室 主催：青木平七 出版年は会期に  
よる「近畿栽培大家の菊花大共進会」（会場：  
天王寺動物園 主催：大阪市）と同時開催

大楠公展覧会出品目録 たいなんこうてんらんかい  
しゅつぴんもくろく

刊 1枚 31.0 × 46.5cm

神戸 大阪毎日新聞社神戸支局 昭和二年五月  
会期：昭和二年五月一日より十二日まで 会場  
：神戸三越呉服店 主催：神戸史談会・神戸三越  
呉服店 後援：大阪毎日新聞社神戸支局 出版年  
は会期による 副本あり

道成寺鐘巻千年供養記念展覧会 どうじょうじか  
ねまきせんねんきょうきねんてんらんかい

刊 1枚 17.0 × 37.3cm

大阪 [大阪三越] 昭和四年四月

両面刷り 会期：昭和四年四月一日より十日ま  
で 会場：大阪三越西館七階 出版年は会期によ  
る 同月二十一日より十五日間、道成寺にて鐘巻  
千年供養を厳修するに先立つ展観 裏面に「紀州  
日高川道成寺略誌」あり

馬に因む展覧会出品目録 うまにちなむてんらん  
かいしゅつぴんもくろく

刊 1枚 35.7 × 73.3cm

神戸 [出版者不明] 昭和五年一月

会期：昭和五年一月四日より十二日まで 会場  
：神戸大丸 主催：神戸史談会 後援：大阪朝日  
新聞社神戸支局 出版年は会期による 巻末に  
「兵庫三教社納」とあり

国旗と旗に関する図書展覧目録 こっきとはたに  
かんするとしよてんらんもくろく

刊 1枚 35.2 × 78.6cm

青木平七編 青木平七序 大阪 青木平七 昭  
和五年二月

二色刷り 会期：昭和五年紀元節 会場：大阪  
府立大手前高等女学校 主催：青木平七 奥付に  
「刊限千五百部」とあり

江戸時代／花見風俗展覧会陳列明細目録  
えどじたいはなみふうぞくてんらんかいちんれつめいさいもく  
ろく

刊 1枚 39.1 × 53.8cm

尾崎久弥編 尾崎久弥序 東京 [尾崎久弥か]  
昭和五年四月

両面刷り 会期：昭和五年四月一日より十日ま  
で 会場：上野松坂屋 出版年は会期による 尾  
崎久弥が選抜・分類を担当

旅寝塚建立記念／古俳書展覧会陳列書解題

たびねづかこんりゆうきねんこほいしよてんらんかいちん  
れつしよかいげだい

刊 1冊 4丁 24.4 × 17.2cm

尾崎久弥著 昭和七年晩秋尾崎久弥例言 豊橋  
欣魚荘文庫 昭和七年十一月

袋綴じ 「欣魚荘文庫」(朱・長方印)を捺す  
会期:昭和七年十一月十三日 会場:豊橋市湊  
町神明社 奥付に「禁売買」とあり 例言によ  
ると、欣魚荘主人松井佳一等の委嘱により、尾崎が  
蒐書と編成に当たり開催 松井佳一書簡 1通(封  
書・巻紙)を挟む

明治初期新聞雑誌展観 めいじしよきしんぶんざつ  
してんかん

刊 1枚 15.5 × 46.3cm

[出版地不明] [出版者不明] 昭和八年十  
一月

会期:昭和八年十一月二十七日より三十日まで  
会場:朝日ビル専門大店催物会場 出版年は会  
期による 即売会を兼ねる

五代目菊五郎三十三年追善／記念展覧会出  
品目録 こだいめきくごろうさんじゅうさんねんついぜんき  
ねんでんらんかいしゅつびんもくろく

刊 1枚 19.6 × 55.1cm

東京 都新聞社 昭和十年二月

両面刷り 会期:昭和十年二月十三日より二十  
五日まで 会場:三越本店 主催:都新聞社 出  
版年は会期による 大パノラマ2場面、特設場(第  
1、第2会場)あり また、日比谷公会堂にて都  
新聞社公益部主催の「五代目菊五郎追善大演芸会」  
(二月十七日夜)、「第三回新舞踊名流大会」(三月  
十六日夜)ある旨を記す

日露戦役三十周年陸軍記念／大山元帥展覧  
会 にちろせんえきさんじしゅうねんりくぐんきねんおおよ  
まげんすいてんらんかい

刊 1枚 26.8 × 41.2cm

東京 東京朝日新聞社 昭和十年三月

両面刷り 会期:昭和十年三月十日より三十一  
日まで 会場:日本橋高島屋 主催:東京朝日新  
聞社 後援:陸軍省 出版年は会期による 大山  
元帥の肖像および揮毫の写真あり

建武中興史料展覧会／出品目録 けんむちゅう  
こうりょうてんらんかいしゅつびんもくろく

刊 1冊 28頁 18.5 × 12.2cm

[出版地不明] [出版者不明] [出版年不明]  
奥付なし

## 7. 4 図書目録・月報

稀書複製会々報 きしよふくせいいかいまいほう

刊 5(16),9(2) 22.2 × 14.8cm

[東京] [稀書複製会] 昭和三年二月(第  
五期第十六回)

## 7. 6 忍頂寺務関係資料

〔忍頂寺文書〕 にんじょうじもんじよ

写 1筒

[年時不明]

古い忍頂寺仁三郎書詩と伝承されるが、破損は  
なはだしく内容は確認していない 丸筒に収める

臍の緒 へそのお

5点

安政四年～明治三十一年

「安政四丁巳九月三日 万年草 宝林寺賢随様  
より」「明治元戊辰年九月廿八日夜九時半時誕生  
次女満寿十月朔日夜臍紐落」「明治元辰年十月六  
日 次女満寿産婆」「忍頂寺務臍緒明治十九年十  
二月八日誕生 同年同月十二日脱落」「明治三十  
一年四月廿一日 忍頂寺誠一」

附命箋 ふめいせん

写 4点(包紙含)

明治十九年十二月(※務誕生以降での附名箋、  
産毛、歛到来之控)

内容:

○包紙(奉書紙) 51.5 cm × 38.1 cm 墨筆にて  
「附名箋」

○附名箋(懐紙) 52.5 cm × 39.3 cm 「明治十  
九年丙戌歳十二月八日午後四時誕生、忍頂寺務、  
右命名ス」

○産毛 24.5 cm × 30.6 cmの包紙に「明治拾九年  
十二月八日誕生、十三日、忍頂寺務」と記載 な  
かに、さらに紙で産毛をくるむ

○歛到来之控 33.4 cm × 12.4 cm 大福帳綴、懐  
紙半折5枚、表紙に「明治十九年十二月務、全二  
十二年九月菊江、歛到来之控」とある、他人の持  
ち来たった誕生祝の手控

法号 ほうごう

写 1枚 39.6 × 53.6cm

引撰寺  
包紙あり(表書き「法号」、裏書き「忍頂寺務忍頂寺琴代」) 本文は「法号授与 忍頂寺務忍頂寺琴代 真嗣院流芳静村居士 持明院清平 妙琴大姉 昭和廿年参月拾六日 右法号授与了 慈光山 引撰寺」 「死亡通知案文」、[天保二辛卯年四月津名郡志筑浜志筑浦分間絵図写真] と併せて保管

〔天保二辛卯年四月津名郡志筑浜志筑浦分間絵図写真〕 てんぼうにかのとうしがつつなくんしづきはましづきうらぶんげんえずしやしん  
写 1枚 11.2×15.5cm  
裏に務筆にて説明書き 「法号」と併せ保管

〔忍頂寺家系図〕 にんじょうけいけいず  
写 1枚 309.0×25.0cm  
田居覚作成 淡路 昭和四十七年  
原本は淡路引撰寺

〔系図関係一括〕 けいずかんけいけいいつかつ  
写 6点  
〔昭和四十七年頃〕  
引撰寺の田居覚住職より、昭和四十七年に送られた系図に関する書類

〔忍頂寺家関係資料〕 にんじょうけいけいけいしりょう  
写 大合1冊 約60枚 24.7×17.1cm  
忍頂寺務編 [明治~大正年間]  
「忍頂寺家整理案」(忍頂寺達吉筆 明治二十七年三月)、「藤広久伝略」、「務宛達吉書簡」(明治四十五年二月二十八日付)などの書簡の写し(キクエ・浅野為三郎息の夫婦問題に関わるもの数通)、電報控え等の諸資料を綴じたもの ハガキ2枚(務宛達吉、務宛赤松要)を挟む 年時は、大正十四年十一月十九日付書簡の写しが最も新しい

〔忍頂寺家重要資料一括〕 にんじょうけいけいじゅうようしりょういつかつ  
写 大1冊 約100枚 27.8×19.5cm  
忍頂寺務編 [明治~昭和頃]  
地券、土地登記書、不動産売渡書、戸籍写、改名請願書(写・忍頂寺又兵衛から晋)、忍頂寺達吉履歴(明治四十四年)、達吉死亡届(写・務筆)、入籍届(写・務筆)、養子縁組届(写・務筆)、小野弘忍頂寺腿子婚姻届、忍頂寺家系図(忍頂寺達吉筆、務補筆)など忍頂寺家に関わる重要書類またはその写しを綴じたもの 茶色表紙を付す 年

時に関しては、「平甚譲券之証 (中略) 譲主 忍頂寺令 印/明治七戊年六月/平野与三吉殿」(写)、「地券 (中略) 明治十年九月廿四日 兵庫県」、戸籍原本証明「昭和廿三年五月廿九日 兵庫県津名郡志筑町長 日野弥三郎」他、明記せるもの多数あり

〔忍頂寺マス小学校卒業証書〕 にんじょうじますしょうがっこうそつぎょうしりょう  
写 1枚 19.6×26.6cm  
〔志筑村(兵庫県)〕 志筑小学校 明治十二年十二月十六日付  
「兵庫県平民/忍頂寺マス/十一年八月月」「下等小学全科卒業候事」

〔忍頂寺うた葬儀時諸書類一括〕 にんじょうじうたそうぎじしよしりょういつかつ  
写 1冊 28枚 32.5×12.6cm  
明治二十一年三月五日(※表紙)  
「悔帳」「葬式順席帳」「青物到来記」「買物帳」等

〔忍頂寺晋葬儀関係資料他一括〕 にんじょうじすすむそうぎかんけいけいしりょうほかいつかつ  
写 1冊 43枚 33.3×12.4cm  
明治二十一年十一月二十日(※表紙)  
「御悔帳」「調物帳」「葬式名面帳」「人員調帳」「音物供物控帳」「大正九年四月八日法要帳」

〔忍頂寺国郎葬儀関係資料一括〕 にんじょうじくにんじょうじくにおそうぎかんけいけいしりょういつかつ  
写 1冊 32枚 33.6×12.9cm  
明治二十四年九月十二日(※表紙)  
「悔帳」「葬式役割帳」「音物帳」等 表紙に「明治廿四年九月十二日」「午後五時出棺」とあり

婚儀御歡及御見舞控 こんぎおよろこびおよびおみまいひかえ  
写 1冊 3枚 34.0×12.7cm  
明治二十五年十月六日(※表紙)

華術初伝免状 かじゅつしよでんめんじょう  
混 2通 2枚 38.7×53.4cm  
大正四年  
「華術三才之巻/右一卷依執心今般及伝授有也/華道家元第七世/未生齋勝甫 印 印 大正四年八月 忍頂寺琴代殿(免状)、「大正四年九月一日」(入門記)



【茶道免状一括】 さどうめんじょういっかつ

混 9通 9枚 40.0×52.6cm

大正十年～大正十四年

畠田きくゑ（忍頂寺務妹、国郎長女）の今日庵（裏千家）茶道入門、相伝許状関係8種（それぞれ包紙付）および「許状申込証」 各々の年時は次の通り

- 入門許状ほか4通 大正十年十二月十五日
- 壺天目・茶箱点月相伝各1通 大正十二年四月五日
- 盆点相伝1通 大正十三年一月十九日
- 和巾点1通 大正十四年七月七日

【忍頂寺ます葬儀関係資料一括】 にんじょうじますそうぎかんけいれいしりょういっかつ

写 1冊 26枚 33.5×12.3cm

大正十二年四月十九日（※表紙）

「玉鈴院観阿妙益大姉俗名ます記録」「大正十二年四月二十一日役割帳」「梅み帳」

目録 もくろく

写 折紙1枚 37.0×50.0cm

林勝作 [年時不明]

包紙に「目録」と上書 忍頂寺家への贈品目録

目録 もくろく

写 折紙1冊 2枚 36.7×49.8cm

林勝作 [年時不明]

包紙に「目録」と上書 忍頂寺家への贈品目録  
折紙2枚のうち1枚は白紙のものを綴じる

目録 もくろく

写 懐紙1綴 2枚 18.4×50.8cm

富田耕作 [年時不明]

忍頂寺家への贈品目録 紅白の綴じ糸で右端を綴じる 1枚は白紙

目録 もくろく

写 懐紙1綴 2枚 18.1×48.6cm

富田耕作 [年時不明]

忍頂寺家への贈品目録 紅白の綴じ糸で右端を綴じる 1枚は白紙

諸入費控帳 しよこゆうひひかえちよう

混 1冊 13枚 33.5×12.2cm

忍頂寺務自筆 昭和二十年五月二十九日（※表紙）

忍頂寺琴代葬儀資料 「弔問者芳名録」を付す

【昭和二十六年小野麗子手帳】 しょうわにじゅうろくねんおのれいにてちよう

写 1冊 12.7×7.3cm

小野麗子自筆

【忍頂寺家関係写真】 にんじょうじかかんけいしやしん

23枚

内容：

台紙なし7枚

- 三浦おいろ・湯朝竹山人写真 昭和二年十二月十五日京都八坂神社境内にて、為初会見記念撮影
- 忍頂寺レイ・全マス写真
- [浦村救援団本部前にて集合写真]
- 田子の浦のさかさ富士
- [FUSHIMIMARU 船上にて]
- [惜春賦句碑前にて、銀座写真館]
- 大正十一年七月二十三日於大阪三越呉服店撮影

小封筒内4枚

- 昭和十一、二年頃東京市谷にて、忍頂寺琴代（鉛筆書）
- 多田くわ 2枚
- [多田くわ他、集合写真]

封筒「御写真、京阪自動車株式会社写真部」内1枚

○ [二名写真] 二十五年六月二十六日於本銀前  
台紙付11枚

- 忍頂寺覚写真 明治四十年五月撮影
  - 菊江写真 忍頂寺雅楽郎叔父様へ、明治四十四年五月撮写、神戸元町三丁目小嶋（写真館）
  - 京都帝国大学在学記念 大正五年十一月三日、忍頂寺覚写真、京都岐陽館
  - 呈務君、覚写真 四拾一年三月 [1908、march]
  - [淡路洲本萩原写真館撮影]
  - 多田麗子 「二百二日目、大正四年四月四日写、岐阜神田町清水写真館」
  - [4名集合写真] 神戸織田写真館
  - [5名集合写真] 日本橋江戸橋三丁目深沢写真館
  - [お茶の席上写真] 神戸長田、塚本写真館
  - 昭和十八年一月十二日写、晃嗣、二才（満九ヶ月目）恵嗣、四才（満二年一ヶ月目）、三宮写真室
  - 小野弘、麗子婚礼写真 昭和十四年十一月十二日、大礼会館
- 以上、23枚 紙筐内収蔵

**【忍頂寺家関係写真】 にんじょじけかんのいしやしん**  
74 枚

内容：

**忍頂寺務写真 8 枚**

- 「昭和二十五年四月八日本家邸内ニテ写ス」
- 「会社にて撮影」 2 枚
- 「会社にて食事」
- 「玄関先にて」
- 務肖像写真 神戸織田写真館撮影 台紙あり
- 務肖像写真 2 枚

**友人ほか写真（記名等あり）18 枚**

- 姑射山畠田躬耕字伯規通称耕 = (イ+小) 真像天保五年三月十五日生四十三年九月、明治十年一月二十五日写之、高麗橋東写真
  - 明治四十五年四月、鴨頭武利・伊藤梯輔写真、呈寶川君〔愛媛県越智郡大井村紺原五三〕、大阪京町堀若林独立軒撮影
  - 大正六年七月廿日南支那へ旅行記念 神戸三宮 X 写真館
  - 軍服姿写真 裏面「太田」(鉛筆書)
  - 江本正男写真 裏面「中学時代ノ江本正男氏、明治三十七年七月十七日住吉駅ニテ氏ト岡田氏ト余ト会合ノ際寄贈サル」 淡路山際知足軒撮影
  - 老太田フジ写真 神戸市田写真館撮影
  - 児島五一写真 明治三拾九年十二月写 裏面「親愛ナル忍頂寺兄ニ呈ス、淡路洲本山際写」
  - 四十年十二月撮影、呈忍頂寺兄入部生、神戸市田写真館撮影
  - N.Okada・K.DoI 写真 明治四十年四月撮影、神戸市田写真館撮影
  - 片原民江写真 拾九歳、大正元年拾二月一日撮影、大阪塩町心齋橋東、田村景美
  - 斎藤静枝見合写真 細見耳鼻咽喉科病院用箋に原籍地・現住所・戸主父などの記載あり
  - 人物写真 洲本紺屋町天狗写真館、四十三年二月十三日
  - 人物写真 神戸市田写真館撮影、明治四十一年三月撮影
  - 西山龍月写真 岡山太田 Rakusuiken 撮影、呈宝川君明治四拾老年八月一日
  - 岡部みえ子三才写真 洲本紺屋町天狗写真館
  - 中野しげ子・下田ます写真 淡路富島写真館
  - 加納通江写真 昭和九年四月五日誕生、全年五月廿四日撮影、神戸元町市田写真館
  - 西尾類蔵夫妻写真 大正六年十二月十九日結婚式拾周年記念撮影、神戸市田写真館
- 学校写真 11 枚**
- 浅野高等小学校第十三回卒業生写真

○ 塩田尋常高等小学校、大正二学年度 淡路松葉写真館

- 大正四年卒業生 淡路山際写
- 大正四年卒業生 淡路山際写
- 大正四年卒業生 淡路山際写
- [年時不明] 3 枚
- [年時不明] 淡路山際写
- [年時不明] 洲本天狗写真館 2 枚

**婚礼写真 11 枚**

- 東京新橋 K.Shashinkan 2 枚
- 函館田本写真館
- 東京、アベスタヂオ
- 神戸日の丸写真館
- 淡路大賀写真館、直之(二十六歳) 嘉代子(二十一歳)、昭和二十一年四月二十八日挙式
- 中村勅滋・京子 昭和十三年十二月廿二日挙式
- 江口伸次郎・展子 昭和四年五月十六日、忍頂寺様

○ 神戸青山撮影 3 枚

**忍頂寺本家墓地写真 2 枚**

- 墓前集合写真
- 墓写真

**風景写真 3 枚**

- 温泉場光景 山中温泉山下小次郎 2 枚
- 祥雲寺五葉松

**友人ほか写真（記名なし）21 枚**

- 女性写真 東京中黒撮影
- 女性写真 東京 Takebayashi 撮影
- 女性写真 東京八王子喜笑堂安西写
- 女性写真 神田区錦町、写真師工藤孝撮影
- 女性写真 武州八王子神宮製
- 女性写真 八王子喜笑堂安西製 (以上 6 枚同一人物か)
- 女性写真 神戸織田写真館
- 女性写真 台紙なし
- 女性日本髪写真 大阪西野田山本写真館
- 男性三名写真 Photograph、Artistic
- 女性写真 台紙なし
- 女性写真 神戸銀座横、トーゴ一撮影
- 男性二名写真 淡路山際写真館
- 大浜公園男性三名写真 淡路山際写
- 女性写真 神戸長田塚本写
- 男性写真 深草師団前国越写真館
- 男性写真 洲本紺屋町天狗写真館
- 男子学生写真 大阪京町堀若林独立軒
- 女性写真 大阪 KURODA
- 母子写真 東京湯島本郷、Iwabuchi 撮
- 夫妻記念写真 神戸市田写真館

【忍頂寺務写真】 にんじょうじつとむしゃしん

10枚

内容:

忍頂寺務写真10枚

- 昭和九年九月東京日々新聞所載写真
- [へちま文庫関係人物写真] 昭和二十五年五月十九日撮影 忍頂寺務・松井佳一・西村貫一・天野芳太郎・西村氏夫人・町田梓楼
- [務と三田村篤魚、路上にて] [年時不明]
- 昭和七年八月一日撮影、城崎温泉アマン
- 明治四十五年二月撮影、神戸織田写真館
- [務学生姿] 明治四十一年三月撮影、神戸市田写真館
- [T.Ninjoji と N.hayashi、学生姿] 明治四十一年四月撮影、神戸小島写真館
- [務と某氏] 2枚 [年時不明]
- [大正九年一月二十二日撮影写真] 裏面に「22nd June1920・1/120Fo.9.D.3」と記載
- [庭球チーム集合写真] 裏面に「Shimizu. Koga. Tamagaki. Ito. Takamura. Toda. Sugiyama. Ichida. Okada. Hosoda. Oka. Takabayashi. Ninjoji. Hayashi, sept, 06」と記載

【忍頂寺務息女麗子婚礼親族集合写真】 にんじょうじつとむそくじょおいにこんれいしんぞくしゅうごうしゃしん

1枚

- 昭和十四年十一月十二日撮影、大礼会館写真部新橋江木写真館 小野家・忍頂寺家親族、中央に麗子、右に務、仲人に濱家熊雄

【契約證書題名清元研究】 けいやくしよしょうしやたいめいきよもとけんきやう

混 1冊 6頁 27.3 × 19.8cm

東京 春陽堂作成 昭和五年五月

春陽堂と忍頂寺務との間での『清元研究』出版に関する契約書(昭和五年五月十二日付) 春陽堂による活版印刷の契約書なれど、数条に涉って、契約者である発行者春陽堂和田利彦と務との間で条文抹消・訂正箇所両者の認印を捺す 検印料としては「第六条 発行者ハ著作者ニ対シ検印料トシテ本書各冊ニ付其定価ノ八歩ヲ支払フモノトス」とある 別に、五月十日付で春陽堂木呂子斗鬼次より奥付印紙二千枚送付の旨の手紙を挟む

## 7.7 その他

【写真図版原版】 しゃしんずはんげんげん

1点 15.4 × 4.6 × 2.3cm

[年時不明]

狂歌

約定証 やくじょうしよ

1枚 24.5 × 33.5cm

明治十三年一月十九日付

嶋原太夫／道中御案内 しまばらたごゆうどうちゆうごあんない

刊 1枚 19.0 × 52.0cm

島原廓編 [京都] 島原廓 大正十五年四月  
書名は袋(19.0 × 8.8cm)による 費用の明細書(巻紙、墨書)1通挟む 島原と記載した後に「廓」印あり 期日:大正十五年四月二十一日

## 8 什物

羽織 はおり

1点 93.0 × 82.0cm

茶色 裏地紺色

羽織 はおり

1点 93.0 × 83.0cm

黒色 紋付き

羽織 はおり

1点 112.0 × 129.0cm

黒色 裏地に紋様

羽織 はおり

1点 122.0 × 129.0cm

芥子色

袴 はかま

1点 100.0 × 80.0cm

黒縦縞

風呂敷 ふろしき

1点 78.0 × 72.0cm

紺色

風呂敷 ふろしき

1点 106.0 × 106.0cm

緑色 紋付き

内敷 うちしき

1点 84.8 × 66.0cm

鼠茶に忍頂寺家の紋（おもだか、蔓に藤丸）

内敷 うちしき

1点 55.4 × 50.7cm

小早川秋声画 大正十四年

「歳次乙丑吉日為忍頂寺氏 秋声作」

雛軸 ひなぐ

1軸 86.7 × 35.1cm

忍頂寺静村画 明治二年三月（※箱蓋裏）

絹本彩色 桐箱入 箱裏に「雛軸 臨地 [ママ]

生筆 明治二年三月為 / 祝ます初節句」とあり

臨池子擬藍瑛山水 りんちしらんえいさんすいこぎす

1軸 129.8 × 40.3cm

忍頂寺静村画 [年時不明]

紙本墨彩 「法藍蝶叟画於自鋤山房 / 静村氏

印（現=佳趣） 印（知音名楽） 印（金石縁）

箱書「臨池子擬藍瑛山水 続本」

広行誕生祝山水 ひろゆきたんじょういわいさんすい

1軸 127.6 × 48.0cm

画者不明 昭和十年五月贈（※箱書）

紙本彩色 忍頂寺務が甥の誕生を祝して贈ったもの 箱裏に務筆にて「詩曰、福祿既同、保其家邦、忍頂寺務 / 昭和十年五月広行初節句贈之」 碎岳造叟の賛あり 落款「碎岳造印」「有造」

印類 いんか

3顆

紙箱に収める 各々の印文・寸法・印材等は以下の通り

○「貞観貳年九月廿日詔許賜名忍頂寺」 2.4 × 2.4 × 6.0cm 水牛、朱文、方印

○「多田」（務の妻の旧姓） 0.9 × 0.9 × 3.0cm ツゲ、朱文、丸印

○「□」（文字削り取られ不明） 1.3 × 1.3 × 3.9cm ツゲ、丸印

印類 いんか

4顆

布袋に収める 各々の印文・寸法・印材等は以

下の通り

○「淡路志筑莊忍頂寺文庫」 2.9 × 1.4 × 3.4cm 石、朱文、長方印

○「淡路 / 静村文庫」 2.7 × 1.3 × 4.5cm 象牙、朱文、長方印 狛犬の飾り彫り、側款「贈為 / 出版記念時庚午夏 / 有志者」 [緑邨]

○「静村文庫」 2.4 × 2.4 × 5.3cm 石、朱文、方印 側款「戊子秋日 / 忍頂寺大人清胤 / 以文山人墓」

○「月崎布之輔」 6.2 × 2.0 × 1.4cm 桜、朱文

印類 いんか

7顆

紙箱に収める 各々の印文・寸法・印材等は以下の通り

○「川崎今井合資会社印」 2.7 × 2.7 × 6.7cm 水牛、朱文、方印

○「根本太郎」 1.2 × 1.2 × 3.8cm 象牙と水牛、朱文、方印

○「代表社員之印」 1.5 × 1.5 × 6.0cm 水牛、朱文、丸印 蓋あり

○「忍頂寺印」 1.4 × 1.0 × 4.0cm 水晶、朱文、長方印 皮袋あり

○「緘」 1.8 × 1.0 × 2.3cm 鉛、朱文 馬形紐あり

○「□」（文字削り取られ不明） 2.3 × 1.9 × 3.7cm 水牛、丸印 蓋あり

○「□」（文字削り取られ不明） 1.4 × 1.4 × 1.7cm 木材、丸印

## 附・〔忍頂寺務宛書簡〕差出人別リスト

本リストは、仙台忍頂寺家所蔵の〔忍頂寺務宛書簡〕計247点について、その内訳を差出人ごとに示したものである。この仙台忍頂寺家所蔵〔忍頂寺務宛書簡〕は、大阪大学附属図書館に小野文庫が収蔵される際に小野麗子氏が選別して手元に残したものが247点中225点と、その大半を占める。小野文庫収蔵時における受け入れ書簡選別の経緯については、内田宗一（2007）「小野文庫蔵忍頂寺務宛て書簡について一調査の中間報告と考察―」（2006年度大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業）研究成果報告書『忍頂寺文庫・小野文庫の研究2』）を参照されたい。

### 凡 例

#### 1. 差出人名

- \*配列は差出人名の五十音順とした。ただし、差出人名の読みについては推定のものも含む。
- \*差出人名の表記は、当該書簡における表記を基本として、新字体と旧字体とを併用した。
- \*姓あるいは名のみで立項しているものは、書簡の差出人名としてその部分しか記されていないことを示す。
- \*同一の差出人が、複数の名義で差し出している場合は1つの項目にまとめた。

（例）渋谷ゆう（渋谷ゆう子）

……「渋谷ゆう」「渋谷ゆう子」2通りの名義の書簡があるが、同一人と判断される。

- \*差出人名の項目は、当該書簡における名義によった。ただし、小野文庫にも同一人の書簡が所蔵されている場合は、「大阪大学附属図書館蔵 小野文庫目録」<sup>\*3</sup>の「附・小野文庫422〔忍頂寺務宛書簡〕差出人別リスト」における差出人表示に揃えた。

（例）英十三（田中治之助）

……仙台忍頂寺家所蔵書簡の差出人名は2点とも本名の「田中治之助」となっているが、「附・小野文庫422〔忍頂寺務宛書簡〕差出人別リスト」に揃えて筆名の「英十三」を見出し項目として立て、本名は（ ）に入れて示した。

- \*連名で差し出された書簡については、2名連名のものは両名の氏名を「・」でつないで示し、3名以上のものは筆頭の差出人名のみを示して後ろに「ほか」と記した。
- \*連名書簡の2番目以降の差出人については、それぞれの差出人の項目において、連名書簡の項目を参照項目として「→」の後ろに示すことで、各差出人の氏名から当該書簡にたどりつけるようにした。ただし、死亡通知の差出人名として親族名・友人名等を列挙している例については、このような扱いをとらなかった。

\*3 青田寿美・内田宗一・大内瑞恵・太田路枝・神林尚子・佐山美佳・丹羽みさと（2008）「大阪大学附属図書館蔵 小野文庫目録」（『調査研究報告』28、人間文化研究機構国文学研究資料館調査収集事業部）

## 2. 資料点数

\*封書の場合、1つの封筒内に複数通の書簡を収めたものも認められるが、これらについては全体で1点と数えた。

## 3. その他

\*死亡通知については、誰の逝去を知らせているかという情報を、差出人名の後ろに〔 〕に入れてあわせて示した。また、故人の氏名も項目に立て、死亡通知の差出人名を参照項目として「→」の後ろに示すことで、故人の氏名からも当該書簡にたどりつけるようにした。

(内田宗一)

差出人	点数
<b>【あ】</b>	
井筒正三	8
井上姑射	4
井上和雄	7
内田良平	1
江見恒三郎	5
頼原退蔵	6
岡信吉	1
岡部又蔵	1
小澤	1
小田忠嗣	1
<b>【か】</b>	
柏木	1
柏木つる	1
川崎芳太郎	1
浄見虹二	1
浄見郷八 ほか〔浄見ゆき死亡通知〕	1
浄見ゆき	→「浄見郷八 ほか」
清元佐登美太夫	1
黒木勘蔵	1
	→「黒木なほ ほか」
黒木なほ ほか〔黒木勘蔵死亡通知〕	1
小早川秋声	83
駒田彦之丞	1
駒田彦之丞・磯ヶ谷紫江	1
<b>【さ】</b>	
笹山吉太郎	4
覚	3
渋谷弘義	13
渋谷ゆう（渋谷ゆう子）	4
渋谷義雄	2
渋谷義雄〔渋谷義春死亡通知〕	1
渋谷義春	28
	→「渋谷義雄」
瀬良好太	1

差出人	点数
<b>【た】</b>	
田居憲明	1
大丸呉服店	1
高鍋三吉	8
高鍋博美	1
宝川嶋蔵	→「宝川たつ ほか」
宝川たつ ほか〔宝川嶋蔵死亡通知〕	1
多田覚	7
田中治之助	→「英十三（田中治之助）」
谷川政市	1
津村久子	1
津村秀夫 ほか〔津村秀松死亡通知〕	1
津村秀松	1
	→「津村秀夫 ほか」
<b>【な】</b>	
中尾弥吉	1
中谷保二	1
中村智門	→「中村芳雄 ほか」
中村芳雄 ほか〔中村智門死亡通知〕	1
<b>【は】</b>	
英十三（田中治之助）	2
濱家熊雄	20
濱家正儀	1
藤井鐘治	1
藤田徳次郎	→「藤田平太郎 ほか2名」
藤田彦三郎	→「藤田平太郎 ほか2名」
藤田平太郎 ほか2名	1
<b>【ま】</b>	
皆川豊治	1
三宅	1
村上房治郎	7
	→「村上ムメ ほか」
村上ムメ ほか〔村上房治郎死亡通知〕	1
<b>【や】</b>	
横田照二	2
<hr/>	
合計	247 通